

はじめに

いつでも、誰でも、チームで、解決志向のクラスづくり！

学校現場では、いじめ、不登校、教室の荒れ等、さまざまな問題の予防や解決に向けて、また、子どもたちの健やかな発達や成長促進を目指して日々多くの努力がなされています。誰もが通いたくなる安心安全な、子どもたちの力を活かしたよりよい状態のクラスを、皆が求めています。

先生方だけでなく、誰より子どもたちが、いじめがあるクラス、荒れていて学びや作業に集中できないクラス、いさかいや叱責が蔓延するクラス、そのようなクラスには通いたくないはずです。誰かが傷ついたり傷つけられたりしない安全なクラス、自分がここにいていいと思える安心なクラス、楽しく生き活きと自分の力を発揮できるクラス、皆で支え合い高め合えるクラス、そんなクラスに通いたいと思っています。保護者も同じように願っていらっしゃるに違いありません。

「チームとしての学校」(文部科学省「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」2015年)の推進にみられるように、学級担任等の教員のみならず、スクールカウンセラー、支援員等、学校にかかわる多様な立場の人たちが連携・協働していく必要があります。うまく力を合わせられれば、担任の先生が孤立することなく、子どもたちにかける温かい目と声と手が充実し(目をかける・声をかける・手をかける)、よりよいクラスづくりにもつながっていきます。

昨今、学校実践において、従来の“問題対処型”とは異なる“解決志向型”(個人や環境にある資源や強みを尊重して利用し、望む未来やよりよい状態を協働して築く目標志向性、安全性、効果・効率性の高いアプローチ方法)の成果が国内外で報告されています。なかでも、“解決志向型”のクラスへの取り組みであるWOWW(Working on What Works:教室でうまくいっていることに取り組む)アプローチは、支援員がクラスの肯定的な側面に注目して協力し、子どもと教師が協働して教室を成功に導く取り組みとして欧米で注目されているものです(Berg & Shilts, 2004)。WOWWアプローチでは、教員のバーンアウトの減少、児童生徒の学習・行動・心理社会面での成果等が報告されています。

よりよいクラスづくりの取り組みとして、日本でもWOWWアプローチは有望視されるものですが、文化背景や教育システムが異なる日本においては、日本のクラスづくりに役立つ“解決志向型”の実践的なマニュアルが求められます。学校現場の状況に照らし合わせると、導入に負担が少なく効果的かつ安全性の高い、実際に運用できるマニュアルが必要とされます。

本書で紹介する「解決志向のクラスづくり」実施マニュアルは、内外の先行実践を踏まえ参照しつつも、日本でうまくいっている（成功した）クラスづくりを集大成した基礎的研究の知見を活かして開発されました。日本で、困難な課題を抱える学級を、誰もが通いたくなる安心安全な学級に変容させた成功事例経験をもつ全国の小・中学校の先生方約30名にヒアリングを行い、共通する成功要因を抽出し、「誰もが通いたくなる学級への変容プロセス」を見出す基礎的研究を先行して行いました（第3章参照）。

本書では、週に1回、1時限、全5回、学級にクラスアシスタント（以下、CA）が入って約10分実施する「解決志向のクラスづくり」実施マニュアルを、実践校から得られたノウハウとともに紹介します。

CAは、スクールカウンセラーや支援員、相談員、そして養護教諭や同僚教員、管理職などをお願いするのがいいでしょう。自分が担当しない授業などに担任自身がCAとして入るなど、担任中心でも実施できます。

本マニュアルは、CAがクラスを訪問して実施する〈ステップⅠ：観察・できていることのフィードバック〉〈ステップⅡ：クラスのスケーリング〉から構成され、並行して、担任主導の〈クラス活動A：いいところ探し〉〈クラス活動B：みんなdeスケーリング〉を提案します。各回にわたり、主な活動、準備や事後作業、CAの活動（進行手順や台詞）と担任や子どもの活動の流れ、使用する各種ワークシートまで、具体的に示しました。

CAの立場になる方とクラスの担任等とでマニュアルを共有し、ワークシート等の必要な準備を行い、CAは各回に合わせて、台詞をよく頭に入れて行えば、背景にある解決志向アプローチの理論や技法をまだよく学んでいなくとも、十分に実施することができるようになっていきます。“誰もが通いたくなる安心安全なクラスづくりをアシストする”そして“チームで行う”という姿勢がしっかりあれば、毎回のマニュアルに沿って実施することで成果が得られるでしょうし、クラス（子どもたちや先生）の反応から、解決志向アプローチの実践の醍醐味や本質を学ぶことになるでしょう。

本マニュアルは、教員やスクールカウンセラー、教育現場での解決志向アプローチの実践者からも意見を聞き、話し合いを重ねてリファインしてきました。現場状況に応じて、部分的な実践や回数の増減（例えば、〈ステップⅠ〉のみ3回実施する、全5回を10回にしてゆっくり進む等）や、**さまざまな応用を可能とする柔軟性に富んだものです。**

本書を片手に、躊躇することなく、いつでも、誰でも、チームで「解決志向のクラスづくり」を始めてみませんか！ 誰もが通いたくなる素敵なクラスが、みんなの笑顔とともに日本中にあふれることを本気で願って、本書をつくりました。